

森から世界を変えるプラットフォーム主催セミナー

「森林の減少・劣化の現状と農業セクターの取組から学ぶ対策」

2022年10月11日 15:30～17:00 開催

三次啓都氏（JICA 国際協力専門員）による導入プレゼンテーション

世界の森林の現状について概観を説明。世界では熱帯地域の森林減少が著しく、森林減少の大きい地域と食糧事情の厳しい地域はリンクしている。森林減少の9割は熱帯地域で起こっており、その8割は農業に関連しているとされている。森林減少にかかわる農林産物として、木材・牛肉・パーム油・ゴム・コーヒー・カカオなどがあげられる。このような農産物の生産が森林破壊につながらないために、EU やイギリスでは森林デュー・ディリジェンスに関する法整備が進められようとしている。ロシア・ウクライナ危機などの影響として、ロシア・ベラルーシの FSC・PEFC 認証はく奪によりロシア等木材輸入停止のため熱帯木材の輸入が EU で増加しており、またひまわり由来の植物油の供給不足からパーム油価格が上昇しオイルパームの拡大による森林への土地圧力が増す可能性がある。更に、穀物輸出の減少がアフリカ地域の農産物の増産の動きを後押し、農地拡大圧力増加も懸念される。

パネルディスカッション（ファシリテーター：三次啓都氏）

中平尚己氏（UCC 上島珈琲株式会社 農業調査室室長）

社として、「2030年までにすべてのコーヒーをサステナブルな調達に」という取組を行っており、現地住民と協力した森林減少につながらないコーヒー豆の生産活動として、JICA と連携し行なっているエチオピアでの取組など3か所での事例を紹介。

松本由利子氏（コンサベーション・インターナショナル（CI）・ジャパン シニアプログラムコーディネーター）

森林リスクコモディティの中で、特にコーヒー栽培の現状と未来について、2050年までには気候変動によりコーヒー適地が半減する一方、コーヒー需要は3倍になる可能性があること、また企業とともに取り組むサステナブル調達を通じた森林保全活動である「サステイナブル・コーヒー・チャレンジ」の取組などについて、紹介。

小杉昭彦氏（国際農林水産業研究センター生物資源・利用領域 プロジェクトリーダー）

熱帯森林減少の要因となっているオイルパーム栽培について、現状廃棄物とされているアブラヤシの古木等のバイオマス資源を有効活用することにより、持続可能なオイルパーム産業とするための研究について紹介。

坂口幸太氏（JICA 中南米部 中米・カリブ課課長）

ブラジル・アマゾン保全に関する JICA の取組（森林監視衛星、放牧・森林・農業を組み合わせた ILPF と呼ばれる取組等）、様々な主体との楽しみながらの連携のアイデアについて紹介。

ディスカッション

「森林減少・劣化に繋がらない、このような農業の取組を拡大していくためには何が必要か？」というテーマについて、「コーヒーでは栽培面積を増やさず収量を増やしてきており、生産性をさらに高める方法や日陰をつくる樹木を利用したシェード農法を広げることが重要」、「持続的農業は現地の農家からするとリスクもありハードルが高く、マーケットとのマッチングなど包括的なサポートをしていくことが必要」、「途上国でも環境保全への意識は高まっており、現地に使ってもらうには技術としてある程度簡単な必要があり、イノベーションも必要」などの意見が挙げられた。また「民間セクターに期待することは？」というテーマについては、「収益を上げながらこういった取組が可能になることが必要」、「古紙再利用のトイレットペーパーのように、認証制度等も活用して循環型にしていくことが理想」、「どのように環境負荷の少ない製品等をブランディングしていくかが重要」等の意見が交わされ、環境負荷の大きいアパレル産業も森林回復の取組を行っている事例も紹介された。